

議会報告 さかい通信 2017 秋号

バリアフリー都市に向けた取組み強化を!

■ 情報編

外出先でも手軽にインターネットを利用できる無料Wi-Fiは、外国人旅行者や障がいのある人にとって重要な情報収集の手段であります。無料Wi-Fiが広がれば、視覚や聴覚に障がいがある人でも音声や文字情報を瞬時に得ることができるのみならず、スマートフォンなどの自動翻訳アプリの性能も上がり、訪日外国人との意思疎通が簡単になります。誰もが必要な情報にアクセスでき、人々と交流できるこうした環境づくりは、いわゆる情報バリアフリー都市を形成することにつながります。

さて、改めて全国の政令指定都市の取組みを見てみると、政令市20都市のうち、実に15都市において、市内の主要な公共施設や観光施設に無料Wi-Fiを展開する、いわゆる「City Wi-Fi」を導入していることに気づきました。千葉市は、オリンピック・パラリンピックの競技開催都市でもあり、可及的速やかにCity Wi-Fiの導入・整備に取り組むべきと訴えました。その結果…

関係当局より「極めて重要であると認識している。現在、民間主導の整備促進を図っているが、今後さらに取組みを強化していく。また、公共施設への導入・整備についても、(必要性や費用対効果を個別に検証し)検討していく」との答弁を得ました。

若者からも支持の高いシティチャージ(太陽光パネルによるスマートフォン無料充電スタンド)の市内への設置についても要望しました。引き続き、情報バリアフリー都市の形成に取り組んで参ります!

政令市の無料Wi-Fi



【JR蘇我駅東口広場の拡張は?】

平成25年第四回定例会において私自身が行った代表質問に対し、同広場の拡張再整備の方針を明らかにされてから早4年。改めて、近年の経過とともに今後の取組みを伺いました。

「当初は、用地買収による駅前広場の整備を検討することとし平成26年度から現地測量や基本設計等を実施してきたが、地権者の意向や要望を考慮し、平成28年度には、従来通り蘇我駅前での土地利用が可能となる手法である市街地再開発事業へ変更して、駅前広場の拡張も行うよう再検討している。今年度は、事業化に向けた具体的な検討を進めていく」との答弁を得ました。



JR蘇我駅東口広場

京葉線、内房線、外房線の結節点というそもそもの地の利を考慮すれば、千葉市が掲げる「ちば共創都市圏」の要所は、第三の都心=蘇我副都心と言えます。

引き続きの取組み強化を求めて参ります!

引き続きの取組み強化を求めて参ります!

バリアフリー都市に向けた取組み強化を!

■ 道路編 (※4面に「情報編」を記載)

5年前に策定された千葉市バリアフリー基本構想では、道路の段差解消や誘導ブロックの敷設を中心に重点エリアとして指定された特定街路を中心に整備が進められてきました。進捗としては既に84%を超えており、道路のバリアフリー化も次のフェーズを見据える時期に入ったのではないのでしょうか。

さて近年、高齢化の影響からか、駅周辺やバス停、道路のちょっとした空間などにおいてベンチを設置できないかとの要望を伺う機会が増えて参りました。3年後に迫ったオリンピック・パラリンピックに向けて、幕張メッセ周辺では既にベンチが各所に設置してあり、こうした環境をより広く全市的に広め、目に見えるレガシー(遺産)としてもらいたいものであります。

先日訪問した神戸市では、「まち全体でベンチを整備」事業に取り組んでおりました。本格的な超高齢化社会の到来に備え、バス停へのベンチ整備の促進とともに、歩道や公園への設置も組み合わせ、まち全体にベンチを増やすこととなったそうです。[歩行者にやさしいみちづくり]をめざし、地域の皆さまからの設置要望を受け付ける仕組みも整備されておりました。

バス停など、まち全体へのベンチ整備を推進すべきと訴えました。その結果…

バス停については「必要性を認識しており、ベンチ設置の促進に向け、どのように取り組んでいくのか検討していく」、道路については「休息や交流の場として有効なツールであり、歩道の段差解消などがひと段落したことから、駅前広場を中心に整備すべく設置場所の選定を進めるとともに、設置についての民間資金の活用についても検討していく」との答弁を得ました。

バリアフリーは今やあたりまえの時代です。引き続き市民にやさしい道路づくりを目指して参ります!



道路空間に設置されたベンチ(神戸市)



寄附によりバス停に設置されたベンチ(神戸市)

去る9月26日、千葉市議会「平成29年第三回定例会」において、一般質問を行いました。答弁を含め、約60分の内容となっております。ぜひご覧ください!

■ アドレスは以下の通り。
www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください!

第3回定例会で
一般質問!



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

酒井 伸二

〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14

Tel/Fax.043-268-7120

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@ko-mail.jp



支え合いの共生社会の実現へ!

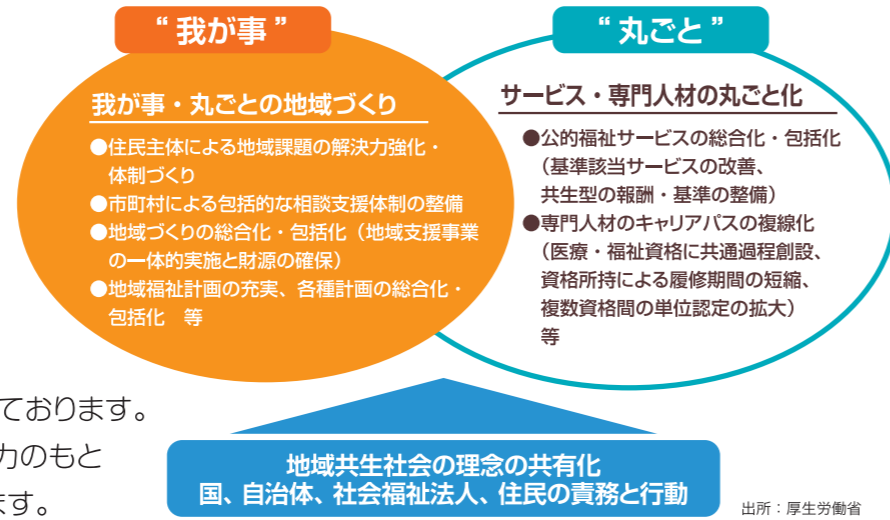


■「我が事」「丸ごと」の仕組みをいかに?

改めて地域共生社会とは、福祉分野における公的支援のあり方を、「高齢者」「障がい者」「子ども」といった従来の“縦割り”から、地域の中で総合的な支援を提供していく“丸ごと”へと転換するものであり、同時に、住民が主体的に“我が事”として地域課題を把握し解決を試みる『我が事・丸ごと』の地域づくりを目指すというものです。現行制度が対象としない生活課題への対応や、複合的な課題を抱える世帯への対応等、対応困難なケースが浮き彫りになってきていることが背景とされております。

今後、千葉市の実情に合う形で、地域の協力のもと地域共生社会を構築していくことが求められます。

「地域共生社会」実現の全体像イメージ



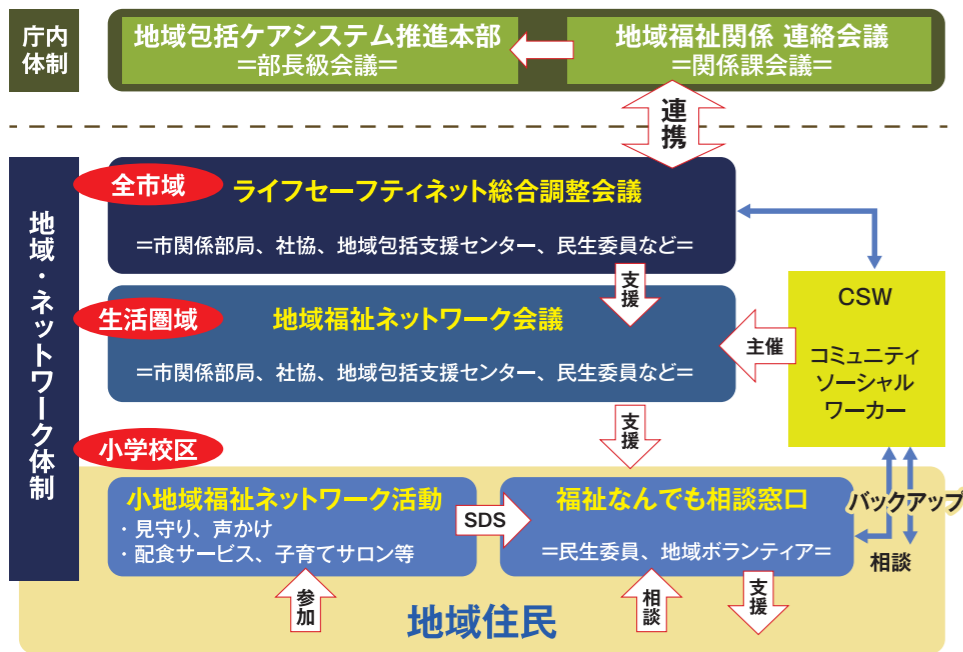
■参考にするべき大阪府豊中市の取り組み

地域共生社会のモデルとなった豊中市では、阪神・淡路大震災後、見守りや声掛け活動、配食サービスに子育てサロンなど、「小地域福祉ネットワーク活動」と呼ばれる小学校区ごとの地域福祉活動がスタート。その後、「行政に行く前に身近なところに相談窓口が欲しい」といった声を受け、地域の民生委員やボランティアによる「福祉なんでも相談窓口」を小学校区ごとに設置。（週1回、2時間程度の窓口。）また、これらの地域活動をサポートし、行政へのつなぎの役割として登用されたのが社会福祉協議会に所属するコミュニティソーシャルワーカー。3年前に放映されたNHKドラマ「サイレントプア」のモデルともなりました。「断らない福祉」を掲げ、ゴミ屋敷、ホームレス、引きこもり、生活困窮など様々な課題に対し、アウトリーチ（家庭訪問）を基本に個別支援から地域支援、仕組みづくりに至るまで携わり、この10年で実に35ものプロジェクトを立ち上げ。社会的孤立の象徴とされるごみ屋敷問題では、地域の力で解決した案件がここ10年で実に400件以上にのぼります。

今回の議会では、こうした事例を紹介しつつ、千葉市社会福祉協議会の機能強化とコミュニティソーシャルワーカーの増員を提案致しました。

当局からは「豊中市の取り組みを参考としながら、本市としても市社会福祉協議会の機能強化にしっかりと取り組むとともに、コミュニティソーシャルワーカーの活動内容の底上げと充実・強化にも取り組んでいく」との答弁を得ました。

豊中市の地域包括ケアシステム



■ポイントは人づくり

近い将来、他市と比較し一気に高齢化が進む千葉市にあって、（行政の力量には限界があるだけに）市民の自助力、共助力を高め、「自助・共助・公助」が最もバランス良く効果を発揮する真の共生社会を目指さなければなりません。一方で、自治会、社協、青少年育成委員会など、多くの団体がその成り手や後継者不足に悩み、同じ人が複数の役割を兼務している実態もよく耳に致します。この担い手の涵養・育成こそが最重要課題であります。今回の議会では、岡山市が取り組むESD(Education for Sustainable Development)、すなわち「持続可能な開発のための教育」を紹介し、千葉市の意向を確認しました。

ESDとは、ユネスコを主導機関とする国際的な取り組みでもあり、いわゆる主体性を持った担い手を育む取り組み。岡山市では、「持続可能な社会の実現に向け、共に学び、考え、行動する人が集う地域づくり」を目的とし、2005年からプロジェクトを開始するなど、精力的に取り組まれております。

当局からは「ESDの考え方に基づいて市民の方が身近な活動に取り組むことは、市民自らが地域を知り、地域の課題に気づき、課題解決の道筋を学ぶ上で非常に有効であり、持続可能な地域づくりにも結び付くと考えられることから、今後、教育委員会と連携して、ESDの視点を取り入れた人づくり、地域づくりに取り組んでいく」との答弁を得ました。

こうした取り組みは、漢方薬のようなもので即効性が期待できるものでは確かにはないかもしれませんが。しかしながら、「我が事」としてとらえる市民の真の育成、涵養には、こうした時間をかけた取り組みこそが重要ではないでしょうか。

■「社会教育の充実」と「千葉市版SDGsの策定」を

岡山市のESDは、公民館がその中心拠点となっており「共生のまちづくりの拠点」として、単に集いの場、学びの場であるのみならず、「地域の課題解決の力を身に着ける場」として機能しておりました。そこで今一度、千葉市における公民館全47館の現状と課題を問うとともに、教育行政における社会教育のあり方について見直しを求めました。

当局からは「今後、新しい社会教育行政の方向性等について、関係部局と協議の場を設け、各部局が有する資源を効果的に活用し、社会教育の機能を幅広い分野で活かすことができるよう検討していく」との答弁を得ました。

また、千葉市における現代的課題の現状を市民の皆さまと共有することにより、その課題の縮減を目指すべく、千葉市版SDGsの策定を提案しました。



[SDGs]持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。
[ESD]ESD(Education for Sustainable Development)とは、「持続可能な開発のための教育」という意味で、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人の育成を目的とした教育のことです。

SDGsとは、国連が2016年から2030年までの達成をめざす持続可能な開発目標、Sustainable Development Goalsの訳。地球環境と人々の暮らしを持続的なものとすべく、全ての国連加盟国が取り組む17分野の目標、169のターゲットからなる。あらゆる形態の貧困に終止符を打つといった従来の開発目標に加え、ジェンダーの平等や良好な雇用環境づくり、生産と消費の見直し、海や森の資源保護、安全なまちづくりなど、先進国が直面する課題も含まれております。